



窪町だより

窪町小学校令和4年度7月号

窪町小学校ホームページ URL: <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/kubomachi-ps/>

「仲間とともに」

校長 西幅孝弘

「先生一。これは何の木ですか？」

「これは、ほおの木だよ。あれはほおの実だよ。」

残雪の残る道の方々に目をやりながら子どもたちの「不思議」に一つひとつこたえてくださったのは、国定公園のガイドをなさっているお年を召した方でした。柔らかな表情と語りに包み込まれる感覚を、子どもたちは味わったようです。

「先生はなんでそんなにたくさん知ってるんですか？」

「みんなより少し長く生きてきたからだよ。」

絵本のようにゆったりとした言葉のやりとりが心に残りました。

時折ぽつぽつと静かな雨が降る奥只見、雪解け水の流れる音、鳥の鳴き声に導かれ、微笑みを浮かべる子どもたち。美しい光景は5年生のハヶ岳でも360度広がっていました。

2泊3日、5年生はハヶ岳、6年生は魚沼移動教室を終えて帰ってくると教職員はだれもが一様に子どもたちの「成長」を感じました。身長は変わらないのに少し大きくなったと感じる瞬間でもあります。目には見えません。言葉でも表しにくいかもしれません。それでも何か違います。本人や身近にいる人には分かりにくいものでもありますが、その変化を私たちは、言葉にして伝えます。

では、「移動教室でどこが成長したのか。」

3日間仲間と過ごす中で、自分の考えや行動を調整し、折り合いを付け、譲り合う力がぐんと伸びました。集団で生活しなければ気付きにくい、分かりにくい学びがそこにはあります。他者への配慮や想像力、お世話になっている方への感謝の気持ち、メタ認知、五感による本物の観察力などです。

6年生の現地退園式のときには、感謝を伝えたい相手の中に「お母さん、お父さん」という言葉もありました。3日間自分で身の回りのことをしながらその子は感じていたのだと思います。胸が熱くなりました。

移動教室をはじめ運動会や音楽会のような学校行事を通して、子どもたちは集団の中で「育ち」ます。国語や算数などの教科では主として「個」の高まりを基に「集団の高まり」を目指しています。一方、学校行事では「集団としての高まり」や「協働」を通して「個々の資質や能力」を伸ばします。仲間との喜びや感動、我慢、共感などの気持ちを味わうことが「個の成長」につながっていきます。



【6月7日 6年 奥只見蛇小沢平】

一学期、小さな活動から大きな行事まで、様々な教育活動を通して子どもたちはすくすくと伸びてきました。校内でも校外でも日々のその小さな成長の認知の積み重ねが自己肯定感や自信につながっていきます。ご家庭でもほんの小さな成長を言葉にしてこまめに認め励ましていただければと思います。そして今年の夏休みが子どもにとって「自分自身の成長を感じる絶好の時間・空間」となることを願っています。

生活科の学習について

(2年担任 佐久間 美咲・佐藤 采也加)

「ぐんぐん そだて わたしの 野さい」の学習で、今年度は、ミニトマト、キュウリ、ピーマン、オクラ、ナスの苗を植えました。「もうこんなに大きくなったよ。」「つぼみができたよ。」「実がなったら、おうちで食べたいな。」と、毎日野菜の成長を楽しみにしながら、手入れや水やりを熱心に行っています。

生活科の時間には、自分の指と葉の大きさを比べたり、算数の学習を活かして高さを測ったり、葉の数を数えたり、においをかいだり、手で触れて感触を確かめたりしながら、様々な角度から野菜について調べて観察カードを書いています。そして、細かい毛が生えていること、野菜によって茎の色が違うことなどたくさんのよい気づきが生まれています。

毎日の世話や新しい発見をすることで、子どもたちはよりいっそう野菜の成長が楽しみになっているようです。野菜を育てる活動を通して、命を大切に作る心も育ててまいります。



人権教育について

(人権教育担当 河野 翔太)

昨今、いじめをはじめとする様々な人権上の問題が顕在化してきています。本校では、「自分を大事にすることができる児童」「ひとを大事にすることができる児童」の育成を目指し、年間を通じて人権教育を実施しています。

取り組みの一つとして、「ほわほわ言葉の木」があります。「ほわほわ言葉」とは、言葉にして言ったり聞いたりすると「うれしくなる言葉」や「温かい気持ちになる言葉」のことです。思いやりの言葉が学校に溢れるようにとの願いを込めて、玄関の中央の柱に掲示しています。

また、6月・11月・2月の「ふれあい月間」には、いじめをテーマとした学習活動に取り組むことで、いじめを生まない、許さない学級風土の構築を目指します。5月・12月には「いのちと人権を考える月間」を設けています。今年度は、5年生は校長先生、6年生はメイク ア ウィッシュ オブ ジャパンの鈴木朋子さんに講演していただきました。

人権感覚はすぐに身に付くものではありません。日頃から、各学年、各学級の実態に合わせて指導を継続していくことが重要です。子どもたちが人権感覚を身につけ、磨き、自分の大切さとともに他の人の大切さを認められるような学校づくり、学級づくりに取り組んで参ります。

魚沼移動教室

(6年担任 工藤 輝)

6月6日～6月8日で魚沼移動教室に行ってきました。天候が心配されましたが、全行程を実施することができました。魚沼市の自然に触れたり、雪国の生活の工夫や歴史を学んだりし、普段の学校生活では経験できない多くのことを学びました。

また、3日間を通して時間を守り集団で行動することの大切さに気付いたり、支えてくれた人への感謝の気持ちを伝えたりする等、たくさんの成長がありました。この魚沼で学んだことを学校生活にも生かしてほしいと思います。

保護者の皆さま、荷物の準備等、ご協力をありがとうございました。